

地域の子どもたちの健やかな成長を願って

けんもり 特別支援教育だより

岡山県健康の森学園支援学校

編集

けんもり支援センター
相談・研修支援部（教育支援係）
第1号

平成30年 4月27日 発行

岡山県では、この3月に「岡山県第3次特別支援教育推進プラン」が策定されました。障害のある子どもが障害のない子どもと同じ場で共に学ぶことを追求していく共生社会の実現を可能にするためには、すべての教職員が特別支援教育の視点をもつことが必要になってきます。しかし、現状では、まだまだ厳しいものがあると思われます。新学期も始まり、実際に授業や学校生活が進んで行く中で、私たちは、それぞれの学校現場で、何から着手すればいいのでしょうか。この第3次プランには、三つの柱と主な取組が明確に示してあります。ポイントのみを紹介してみたいと思います。

【三つの柱】

1 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実

就学前教育では、早期からの支援体制を進めることで集団の中や通常学級で学ぶ可能性を広げていくことを考えています。それは、小学校・中学校でも同じで「共に学ぶ」ことを追求し、子どもの将来を考えながら、通常学級・特別支援学級・通級指導教室などの学びの場の中から最も適切な場を選択できるように考えていきます。高等学校では、県内で数校に通級指導教室が設置され、発達障害のある生徒にも一層適切な支援ができるようにしていきます。これらの核となるのが、校長のリーダーシップと、特別支援教育コーディネーターの機能化です。取りかかりとしては、PTA 総会や学校便り等で、コーディネーターの先生の紹介をし、保護者が相談をかけやすいようなシステムを知らせていく必要があります。

2 特別支援教育に関する全ての教職員の専門性の向上

特別支援学級・通級指導教室の先生方の特別支援学校免許状取得を推奨するとともに、通常学級の先生方も、必ずクラスに支援の必要な子どもが存在するとして、校内外での研修を通して専門性の向上を図っていく必要があります。そのためには、特別支援教育に関する岡山県総合教育センターでの研修や特別支援学校が開催する公開講座などへの参加も有効と考えます。

3 自立と社会参加に向けた一貫した支援体制の構築

就学前からの切れ目のない支援の提供と確実な引き継ぎが重要であるとともに、そのためには個別の教育支援計画の作成・評価が大切になってきます。また、教育・医療・保健・福祉・労働等と早期からつながる、いわゆる「連携」の強化が大切になります。今年度、地元新見市ではこの点に力を入れた取組を計画し、システム化を図るために各機関が強くつながることを打ち出しています。

本校は、全県学区の支援学校であり、多くの関係機関と更に連携していきたいと考えています。特に、地元新見市、高梁市の保育園・認定こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校の幼児児童生徒のニーズに応じて「専門指導員派遣事業」（巡回相談）を行っています。コーディネーターが出向き先生方と共に悩み、考えて参りたいと思いますので、どうぞ気軽に相談をかけてください。「フットワークの軽い健康の森」を目指して参りますので、宜しくお願いいたします。



校長 加藤君子

可能性にチャレンジ ～特別支援学校技能検定～

技能検定は、岡山県教育委員会が平成27年12月に本格的実施させて以来、年々広がりを見せています。現在では、①清掃技能、②PC、③接客サービス、④オフィスアシスタント技能の4種類の検定が実施されており、各特別支援学校が生徒の実態に合わせてこれらの検定に参加しています。本校でもこれらの検定に取り組んでいますが、今回は昨年度の高等部の取組を紹介します。

【清掃技能検定】

モップ、ダスタークロス、ほうき掃除の3種類について4～6級の認定を校内検定で行います。学部作業等の時間を利用して、繰り返し練習します。4m×4mのコートを部屋に見立て、試技を行います。指導・審査では、①安全面・衛生面に配慮して作業できているか、②挨拶に始まり基本的な技能・技術を身につけているか、③掃き残し・拭き残しがなく正確に作業できているか、④手順を守り時間を意識して効率よく作業できているか、等が審査されます。校内検定では、緊張感のある中で、真剣に試技に取り組んでいました。

上位級をそろえた生徒は、県の技能検定に参加します。ダスタークロス・自在ぼうき・糸モップによる一連の清掃を行い、1～3級を認定されます。本校からは1名の生徒が1級を取得しました。

【PC検定】

パソコンの文字入力能力を判定する検定です。基本的には、決められた時間内に何文字の入力ができるかという「速度試験」と、上位級には公文書の正しい入力が行われているかという「文書試験」があります。校内で行える検定ということで、個別の生徒の取組として、課題別学習等の時間を利用して取り組みました。2名の生徒が、3級を取得しました。



【オフィスアシスタント技能検定】

次の四つの作業を行い、正確性やスピード、仕上がりの美しさを審査します。

- ① 文書三つ折り：印刷ミスを取り除き、宛先面が上になるように三つ折りにします。
- ② 宛名シール貼り：印刷不良を取り除き、封筒の決められた位置に宛名シールを貼ります。
- ③ 文書封入：文書の表面が封筒の表面に、宛先が封筒の上側に来るように封筒に入れ、封をします。
- ④ 封筒仕分け：封筒の宛先や名簿を見ながら、封筒を支部別に仕分けします。

学部作業の流通の授業でOAの基礎を学習し、課題別学習で検定に向けての練習を行いました。校内検定の結果を経て、県の技能検定に出場し、1名の生徒が1級を取得しました。



本校の生徒は、多くの人に見られたり他人に評価されたりするのは、どちらかというと苦手な事だと思っています。指導の中では、気持ちが揺らいでしまう生徒もいます。しかし、これらの検定への取組を通じて経験が自信となり、この力を使って人の役に立ちたい、働きたいと思えるようになる変化も感じます。まさに「可能性にチャレンジ！」です。今後もこれらの検定が広く企業や社会に認知され生徒個々の能力を評価されたり、あるいは生徒の労働に対する意欲的・主体的な姿勢を育てたりすることで、就労につながることを願っています。

（文責 高等部 西村重俊）

相談支援

専門指導員派遣事業

(学校・園へ専門指導員を派遣します)

電話相談・来校相談

(電話や来校していただいて相談します)

相談の例

- 障害のある子どもへの支援について
- 通常学級に在籍する特別な配慮を必要とする園児・児童・生徒の支援について
- 校内での教職員研修
(障害の特性とその特性に配慮した支援についてなどのニーズに対応)
- ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり
- 就学について(特別支援学校への就学など)
- 進路に関すること

回数について

- 専門指導員派遣事業は、1年間に何回でも利用できます。
(回数に制限はありません)



専門指導員派遣までの流れ

①けんもり支援センター窓口担当者 赤木利輔(副校長)に電話で相談内容、3日程度の派遣希望日を伝える。



②けんもり支援センター窓口担当者 赤木利輔(副校長)が専門指導員の派遣日、派遣する専門指導員(1~2名)を電話でお知らせする。



③各市町村教育委員会に、次の書類を提出する。

- 派遣申請書(様式1号)
- 気づき表(別紙1)
- 個別の教育支援計画、個別の指導計画(作成している場合)

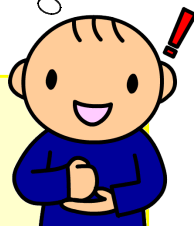


④本校の専門指導員が、訪問する。(以下の者の中から1~2名を派遣)

- 小学部: 黒瀬智子、横田美穂
- 中学部: 郷木哲三
- 高等部: 黒瀬浩江

※ 学校園に訪問する前に、電話などで園児・児童・生徒の様子をお伺いする場合があります。

なるほど!
明日から、クラスで取り組んでみよう。



研修支援

公開講座

日時 7月30日(月) 13:30~15:00
講師 兵庫教育大学 教授 井澤 信三 先生
内容 子どもたちの行動の主体性と般化を促す
~応用行動分析からのアプローチ~

学校公開(年2回)

- ① 6月19日(火) 授業参観、教育相談
- ② 10月10日(水) 体験授業、教育相談

※ 上記以外でも授業参観や教育相談を受け付けています。

支援学校への進学を希望する(考えている)児童生徒・保護者や、支援学校で行われている教育活動を参観されたい行政・福祉関係者を対象に、授業参観や体験授業、教育相談を行います。

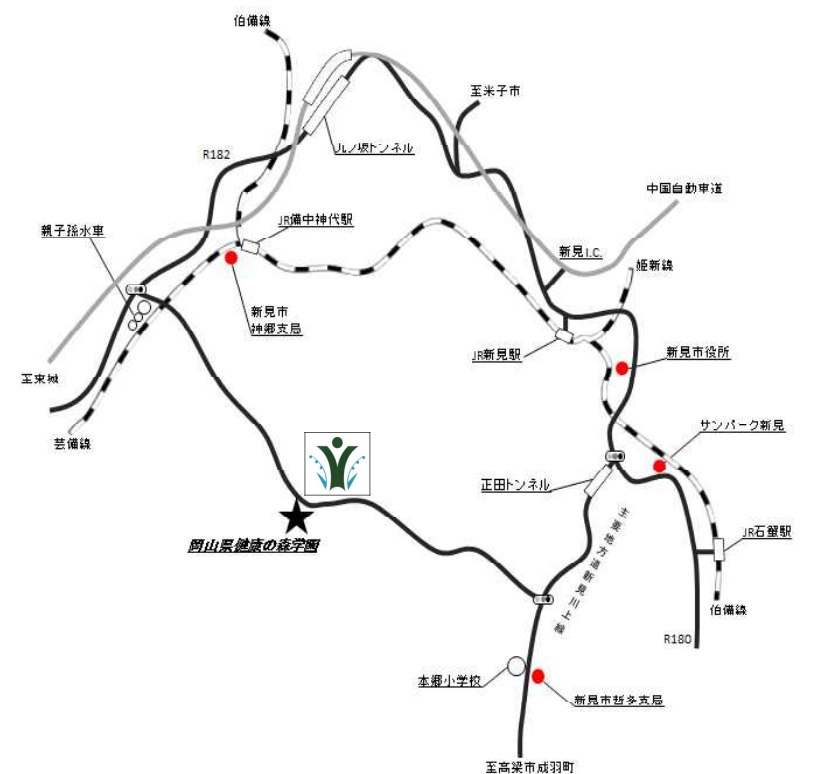
交通案内

○自家用車を利用する場合
新見インターから約25分
(約15km)

○バスを利用する場合
① JR新見駅 備北バス坂本行き
哲多支局前下車

↓
② 新見市営バス宮河内線
健康の森学園下車

○タクシーを利用する場合
① JR石蟹駅から約20分
(約11km)
② JR新見駅から約25分
(約14km)



岡山県健康の森学園支援学校

けんもり支援センター



〒718-0313
岡山県新見市哲多町大野2034-5
TEL 0867-96-2995
FAX 0867-96-2998
E-mail kenmorisien@pref.okayama.jp
HP <http://www.kenmorisien.okayama-c.ed.jp/>

【HP QRコード】